



椿説弓張月

後篇

五

~ 13
2945
11



門へ13
2945
11

鎮西八郎 爲朝外傳 椿説弓張月後篇卷之五

東都 曲亭主人編次

吉野
大田屋
第六回

窮士雪中 野猪を殺す
獵師 黑夜に 村酒を饋致

嘉應二年冬十月下旬八郎爲朝ハ密ニ濱岐の松山を歩ク。肥後國へ
赴たぬふ。船をバ曩ニ逢日の浦ニ捨ちたを人ノ爲ニ得たまひ。
よりて此度々。志渡浦ニ便船し。十二月の中旬。肥後國宇土郡。宇
土濱ニ居ぬひ。ある。宇土山といふ高峯ニ登り。筑紫深と
見ると。せん。あぐぬ火をく。ん。とぞいふ。あぐぬ火く。仲ニ燃
あぐぬ火あり。され之亡妻の白縫姫の。あぐぬ火。懐懐小堪。あ
ぐ。九州ハ。ひ。三年。が。打。兼比原田。も。出。せ。

春記

昭和九年
七月九日
購求

ころづおのが随まり。出いる。あも入いる。あも。前まへに後ごのゆるり。たよ冊しよは桂けい
 を科かく。炊たた玉たまを科かく。食くひ。富あ貴き両りやうあが。ゆるり。今いまも。一ひと炊たの
 夢ゆめと。覚さる。わら。ぬのの海うみ山やまの。わ。も。牙はの。ゆるり。め。う。ま。う。
 一ひと後ごの。の。と。く。一ひと條じょうの。杖つゑ。一ひと蓋がさの。笠かさ。よ。る。ま。ど。浦うら。あ。く。風かぜ水みづの。羽う音ね。え。
 ち。傷やれ。む。ご。と。い。ま。う。君きみ又またの。示し現げん。ふ。あ。う。う。の。國くにへ。あ。つ。れ。ど。も。何なに地ぢ。は。い。れ。
 何なにか。ま。ま。ま。れ。べ。く。も。あ。ら。ね。ど。阿あ蘇その。神かみ垣かき。あ。く。忠ちゆう國こく。あ。く。值ち偶ぐ。せ。前まへ象さう
 も。あ。り。く。此こゝ度たび。も。又また。く。入いる。ゆ。じ。め。な。れ。が。彼かの神かみ社しゃへ。清きよく。ゆるり。と。ま。の。の。の。の。
 神かみの。と。後ご。ま。ま。り。ま。ま。り。な。や。と。も。あ。ら。う。宇う上じやう。と。元げん摩まの。塚つか。あ。る。緑ろく川せん。を。ら。ち。渡わたり。
 東とうの。里り。菰こもの。縣けん。を。ら。う。て。益えき城じやう郡ぐん。よ。入いり。あ。く。日ひ。も。と。や。夕ゆふ。と。え。く。天てん。さ。く。
 結むす陰いん。雪ゆき。霰せん。と。降ふ。り。め。く。寒かぜ。堪たじ。され。ど。の。ほ。ら。の。茫ぼう。く。る。郊きやう原げん
 あ。く。小こ。世せ。ま。ま。れ。枯か尾び花はなの。振ふ。く。う。外あへ。の。宿しゆく賃ちんへ。た。家いへ。も。あ。く。前まへ面めん。は。高たか

く。怪あやし。く。木き原げん山さん。を。そ。と。ん。あ。ら。う。の。秋あき。白はく峯ほう。あ。く。旅りよ客かく。の。い。ひ。つ。る。
 り。と。あ。い。出いで。く。ら。あ。ら。う。べ。た。武ぶ士しの。住すま居い。と。も。え。ぬ。の。の。を。今いま降ふる。
 雪ゆきの。路ぢ。あ。ら。う。心こゝろ。跡あと。あ。ら。う。正ただ。く。も。あ。ら。う。彼かの。入い。傾かたむ。利り。と。ま。ま。と。あ。ら。う。
 と。く。と。り。點ち。改か。つ。ま。の。あ。ら。う。雪ゆき。の。あ。ら。う。烈はげ。く。降ふ。り。面めん。を。向むか。が。た。は。
 日ひ。と。と。や。暮くれ。く。ゆ。先さき。の。あ。ら。う。お。の。あ。れ。野の。飼かひ。の。駒こま。の。叫こゑ。ふ。声こゑ。高たか
 く。あ。ら。う。し。と。か。ら。あ。ら。う。馬うま。の。物もの。は。發は。た。と。あ。ら。う。あ。と。そ。も。何なに。の。
 の。あ。ら。う。と。怪あや。し。く。侍さむらい。と。あ。ら。う。立た。ち。の。果は。く。雪ゆき。と。あ。ら。う。わ。ら。い。の。わ。ら。い。
 赤あか。の。あ。ら。う。り。近ちか。く。あ。ら。う。ま。あ。熟う。入い。あ。く。の。大おほ。き。や。う。あ。ら。う。の。牛うし。よ。い。は。た。
 野の。猪ぶた。の。獵あ。箭や。を。負お。か。る。あ。ら。う。あ。ら。う。の。野の。駒こま。の。叫こゑ。ひ。と。あ。ら。う。た。れ。は。怕おそ。れ。く。
 あ。ら。う。ん。這あ。り。行い。程ほど。の。あ。ら。う。あ。ら。う。と。あ。ら。う。の。さ。い。押お。し。閑ひま。を。待まち。た。あ。ら。う。拙あ。ま。
 爲な。朝あ。を。え。く。大おほ。き。哮う。り。小こ。稚ち。刀やいば。と。押お。並なら。べ。る。あ。ら。う。の。尖とが。た。牙は。を。噬く。及およ。び。

春分月夜



為朝
野中
楮を
殺さ



木...



為朝
醉
為朝

本言月別月徒篇卷之五

の男 燈燭を彼ふむに 向ひて 曹司も消くゆらふ
ハ既よその人なるを知りしや せむ惑ひつゝ 十年あきつるや
秋筑紫より討死せし 白縫あつむや 彼の八町礫とんる僻目
のうみ為 朝をええとつらやと 宣ふまで 臣自家隸本も 猛も劇騷だ
ハ曲司あつむりつら 君とあつむのうら 世も存命あつむるもあつむ
わまの海疑ひつたりつら 漫まりつら 物侍つら 且飲び且けり
白縫ハ紀平後ともお慌忙つ 廣庭よ走りつら ぶつら縛を解
捨つ 塵らち拂ひ 懸つ上坐 精され 獨夫もその妻も 形勢ふ
驚た呆と面目つげよえつら

第廿七回

木原山よ七妻七夫よ 遇ふ
益城郡よ益卒勇將を得る

當下為 朝ハ白縫姫よ 討つ 宣ふ中 保元の播乱よ 又忠國とも
討死つと 誓えつら 誓ひ 在る 意を述べ けつら 肥後乃
木原山より 死出の山あり 縁故を説き 宣へ 白縫
答へ 心は身ハ 宰府より 死べし 又の教訓 然止と 駁の
侍婢を 城を脱出 射つる 矢ハ 雨より 射る 容
易ハ 出ぬ 野風 敵を けり 路を 用り 討死
討殺され 隙よ 主後から 侍婢も 彼ふ
推隔ら 八代も 又流矢よ 命を 損く 危うし 紀平後が 近江
より 必死を 脱出 日八九人の 侍婢よ 環會 主後
よ 四國へ 押つら 讃岐の水崎 隠れ 住ひ 琴引の 神社 武蔵
武蔵太よ 出ぬ 彼ハ 曹司を 斃つら 佐渡兵衛尉 重貞



王
 徳
 山
 意
 不
 人
 不

み。荒。歳。日。出。ま。り。の。ひ。と。ん。の。次。の。日。に。新。院。に。崩。さ。る。ひ。と。と。の。怪。し。く。つ。ま。の。く。と。彼。君。の。追。福。も。三。年。が。程。に。志。の。び。く。は。志。渡。の。浦。に。多。く。め。り。あ。る。は。み。を。營。み。と。ま。り。が。遠。く。彼。所。に。住。ま。び。く。故。々。の。れ。が。紀。平。治。本。を。わ。く。潛。り。肥。後。國。に。立。ち。上。り。あ。木。原。山。に。縣。家。を。索。け。比。比。に。宰。府。あ。り。又。又。右。國。の。火。錯。し。館。に。火。を。放。復。切。る。高。間。四。郎。が。二。子。を。郎。原。鑑。と。い。ふ。の。獵。夫。と。な。り。て。禁。に。あ。り。た。れ。ば。そ。く。く。ど。も。名。告。め。ひ。つ。る。ふ。そ。の。志。と。又。の。四。弟。は。若。ら。る。壯。使。り。又。彼。所。に。住。る。女。子。に。磯。菟。と。い。ふ。年。亦。く。子。を。給。ふ。せ。女。の。童。に。住。り。曩。は。野。の。侍。見。に。公。の。外。に。疎。く。あ。り。ゆ。を。わ。け。じ。う。と。彼。ら。を。ぞ。ぞ。と。雄。く。あ。く。忠。義。拔。群。の。の。の。と。い。ふ。は。立。ち。上。り。ど。く。と。い。ふ。も。後。に。赤。子。と。い。ふ。と。磯。菟。を。高。間。四。郎。が。妻。と。く。彼。亦。夫。婦。を。禁。に。居。せ。し。め。り。と。い。ふ。

旅。客。小。勇。く。見。あ。る。か。と。バ。嚮。ま。や。け。る。と。い。い。賺。く。と。い。ふ。旅。中。の。秘。密。を。告。ぐ。を。相。告。み。り。兼。に。さ。ら。に。備。へ。た。事。を。告。げ。て。不。便。な。ら。う。と。い。ふ。は。ち。り。そ。の。ら。う。野。の。勇。士。を。集。合。し。志。の。ひ。と。と。い。ふ。は。推。渡。り。殿。を。迎。え。り。と。い。ふ。と。と。の。外。化。し。は。と。い。ふ。は。曹。司。に。い。は。る。西。月。下。旬。茂。光。亦。攻。ら。る。と。い。ふ。は。飯。火。を。放。自。殺。す。と。い。ふ。は。羊。の。宿。望。し。づ。く。と。い。ふ。は。朽。木。と。い。ふ。悲。し。く。と。い。ふ。は。比。比。に。人。を。あ。め。ん。と。い。ふ。は。万。里。の。波。濤。を。隔。る。と。い。ふ。は。頭。の。息。の。内。に。天。の。夜。間。の。月。を。と。い。ふ。は。あ。日。の。あ。る。と。い。ふ。は。今。さ。ら。に。人。を。恨。み。を。果。敢。と。い。ふ。は。憤。の。遣。と。い。ふ。は。遮。莫。と。い。ふ。は。と。い。ふ。は。夫。の。仇。を。れ。せ。め。と。い。ふ。は。彼。が。首。を。と。り。と。い。ふ。は。亡。夫。を。祀。り。進。め。と。い。ふ。は。自。害。せ。と。い。ふ。は。と。い。ふ。は。改。髻。を。剪。ぐ。と。い。ふ。は。世。に。あ。る。志。を。示。し。形。に。女。僧。に。似。せ。と。い。ふ。

神の後羅の街は呻吟まじく高間磯萩は催恨しく。才方の勇士を集
 るるや二三十人及ぶ。今ハゆりまじり期をむ。翌ハ東へ船をよこし
 紀平治ホと。そのつらみホーの区。あつても。仍装を整ふ。いと怪ま
 疇昔の夢。ふ年紀二十ふらした婦。忽然とこころんか。枕方立在君の
 身恋とあぼと。その人の盟立の夜。へみぬふ。東へ旅さるゆふのハ。心
 とくまのゆふと。いふ。うが。身交さるよ。その。心。竹地より。あつひつと。向
 彼婦。あせむ。うた。消とやうふ失。とあり。ハ。夢。覚。枕方。を。え。く。ま。は。
 嶋絹。又。撲。搦。さ。る。桂。の。鮮。血。は。流。る。と。う。ま。く。し。き。觸。體。あり。み。の。為
 侍。あ。あ。べ。く。ぢ。み。程。は。天。の。明。も。も。こ。こ。を。紀。平。治。ホ。を。う。び。く。く。の。夢。を
 台。さ。す。ふ。衆。皆。ぢ。ひ。惑。ふ。の。こ。も。く。それ。う。ま。く。し。の。ゆ。う。の。ゆ。う。の。ゆ。う。の。曹
 司。う。ま。く。ぐ。も。今。宵。ホ。を。さ。る。の。夢。の。言。は。違。は。ぬ。と。く。環。會。も。あ。め。こ。と。

と併新院の宣ひちびひいしうさ。ぢひあつたれは。まじり。十年
 あつても。憂。む。の。一。九。十。を。告。め。ハ。紀。平。治。へ。あ。ま。う。の。執。事。ハ。不。学。は。流
 宍。白。稚。姫。の。ひ。ひ。漏。ら。し。ま。う。と。是。彼。語。り。慰。ま。は。る。間。本。末。ハ。磯。萩
 と。も。ふ。廣。縁。又。拜。伏。し。保。え。の。む。じ。ハ。僕。や。や。く。八。九。歳。多。じ。く。ハ。曹。司
 を。怒。ま。じ。り。物。侍。あ。く。も。縛。ま。り。く。罪。を。授。ま。は。は。預。け。ハ。寛。仁。の
 制度。を。め。く。放。り。の。く。と。や。と。あ。ぞ。お。ハ。高。間。を。熟。恋。し。く。は。れ。を
 ち。ま。り。や。と。宣。ひ。く。懐。中。に。り。割。符。を。出。し。く。え。せ。ぬ。ハ。同。方。郎。と。は
 と。う。ま。と。教。馬。だ。と。ら。の。執。僕。白。稚。姫。の。代。ま。じ。り。白。峯。の。山。墓。へ。詣。り。と。は
 の。山。あ。く。旅。客。ふ。處。ふ。る。割。符。を。こ。こ。へ。の。時。の。旅。客。ハ。曹。司。あ。く
 在。せ。執。ある。向。う。や。野。于。玉。の。箇。う。り。と。も。と。へ。は。ひ。進。り。せ。ま。じ。り。面
 志。ま。じ。り。を。終。り。し。し。と。く。願。は。汗。く。後。悔。と。る。お。の。ね。と。し。

忙然... その中ふ君又の亡魂... 外より自殺... 冬の央ふ至る... 肥後へ封じ... 或は足利... 貞とりのみの密... 朝稚を下野へ迎... 物々... 紀平治... 高間... 殊さ... 死をいと惜... 朝稚... 為朝へ又忠... 感激... 上皇へ献... 鶴の不... 白... 夫... 婦君... 庭の白雪...

高間... 山塞... 勇士... 平家の... 愚政を疎... 為朝の智勇... 武士の浪人... 残りの存命... 紀平治... 小就... 賀慶の... 骨... 第十年... 白鶴瑞を呈... 赤心神... 朝稚起程... 次の日... 紀平治... 高間... 十人... 過... 君既... 夜... 原田... 九州の武士... 春... 長月... 後... 高間... 卷之五



舞天丸
誕生して
白鶴吉備と
赤も

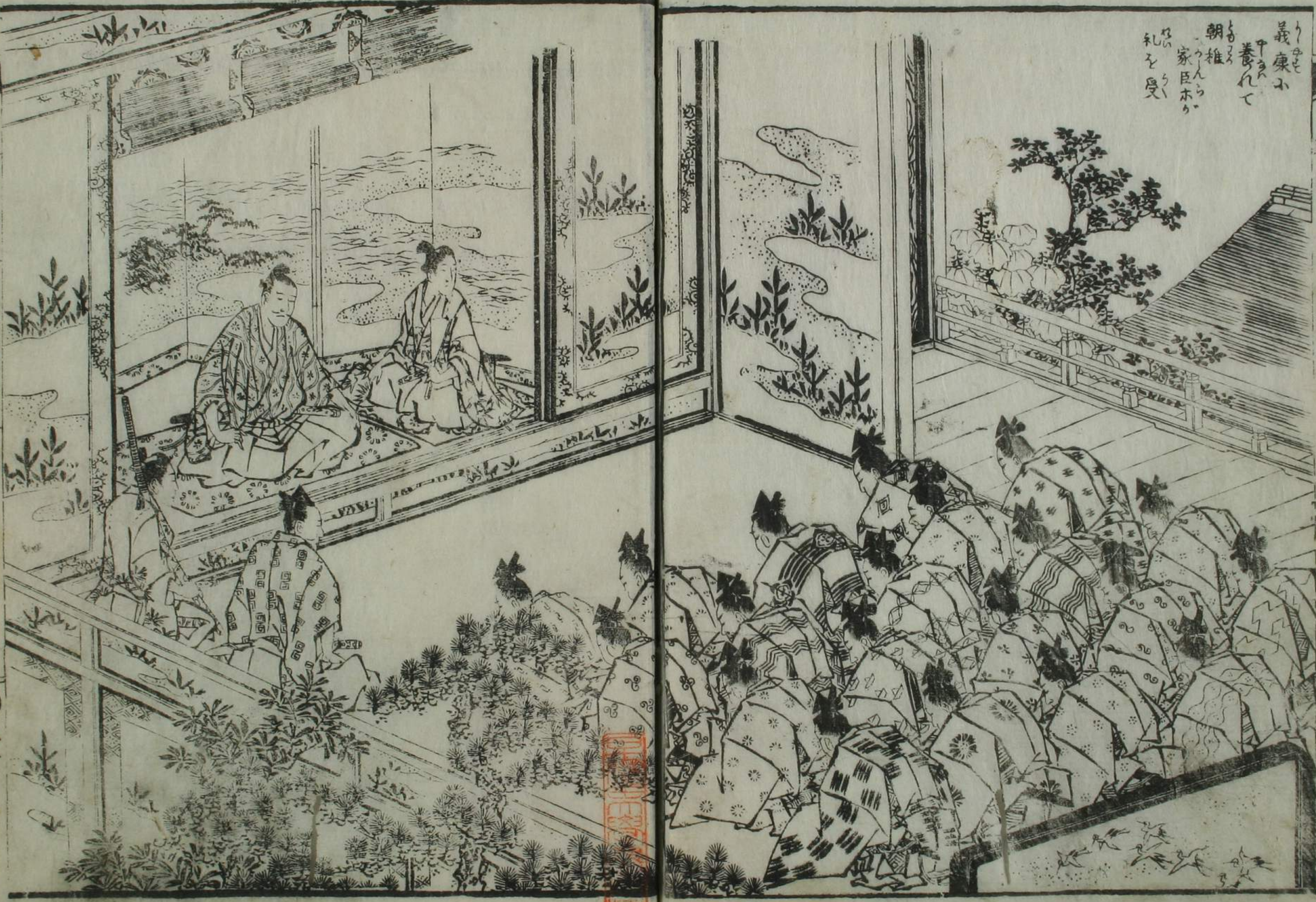
春の鏡子長月後首冊巻之五



本言月別月行篇卷之五

三十一

義康不
中
朝推
家臣
礼を受



いづ。密ひそ申まをふ旅たびこもりぬいとよほつらつらうのあまど。神かみの道みち一ひとのあまらふ。
つが。悪あくるるべーとく。汗あせ一ひとのひつ一口ひとくちの短たな刀やいばを朝あさ推おしよよへらとハハ刃やいばが
まゝ、まゆひつるとを為な朝あさの贈たま来きされ一ひとのめられ。此こ度たびの餞さし別わかれ進まり
まゝあり。一ひとや籠かごはとゆらんか。存ぞん念ねんまありとも。今いまハ七八しち年ねんを
まゝ互たがひに面おもて忘わすれまゝありまあり。あつとをのよまがま。あま短たな刀やいば一ひと
まゝとりのあま。まゝ旅たびの准まも備びを志こころえと。まゝ一ひとのひつ。猛まよ
時とき員わいをまゝ。通とほ路ろのまゝ。まゝ意こころをほさ。路みち限かぎ一ひとのかりど
遍まよ一ひとのバ朝あさ推おしハ養やしやう又またの賜たまを拜まが受うく。僧しやうよ初はつ装まを整ととのへ裳のび
をまが。笠かさとまゝ。一ひと。時とき員わいをまゝ。足あし利りの館たねをまのび。出でる。竹たけ
地ちをまゝ。ゆえとく。まづ彼かの幣ぬいを立たて。試こころまゆま。幣ぬいの既すで西にし乃なり
まゝ。例れいまゝ。まゝ。西にし乃なり。中なかつ先せん道だうをよ。まゝ。まゝ。

のち。後のちハ街まち西にし岐ぎ三さん岐ぎまゝ。まゝ。まゝ。幣ぬいを立たて。御ご導だうとじ。
山やまを踰こ海うみを渡わたり。夜よも宿やどり日ひも歩あり。夫おの従したが後ごあつと先せんまありて。
ゆたといく程ほども。まゝ。外あは遠とほくまゝ。豊ゆた後ごと肥ひ後ごの城しろの宮みや原はら
といハ田あかり舎やをまゝ。まゝ。まゝ。豊ゆた後ごの直な入い郡ぐんハ属ぞく一ひと。肥ひ後ごの阿あ
蘇そと城しろをまゝ。此こ比ひの街まち道だうまゝ。入い江えまゝ。路みち経けいを堰せまゝ
まゝ。萩かき蘆あしのまゝ。横よこつら。憇りやう之のを蔭かげまゝ。宿やど貫くわん家けまありりり。

椿説弓張月後篇卷之五畢

春説弓張月後篇卷之五

